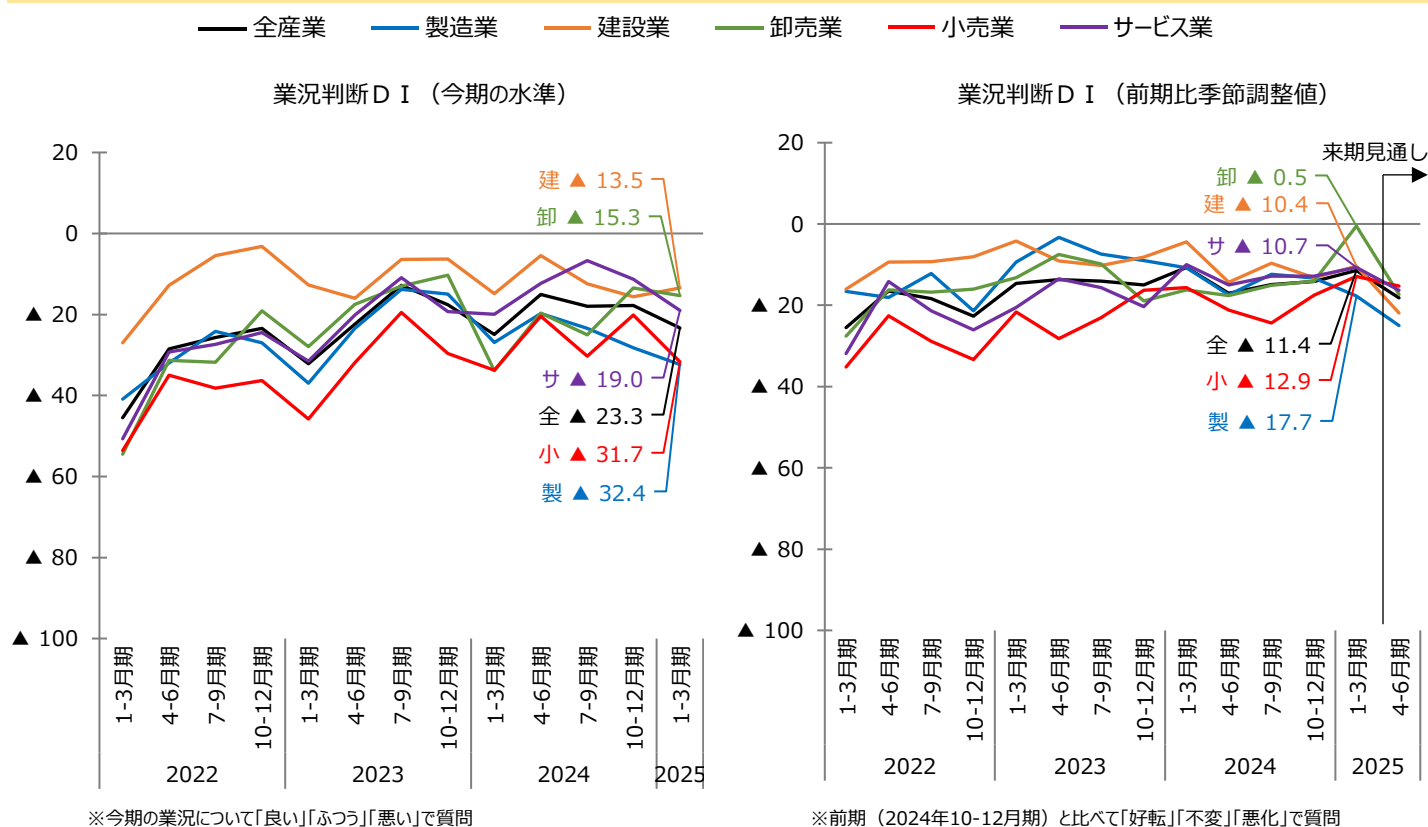


第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 北海道



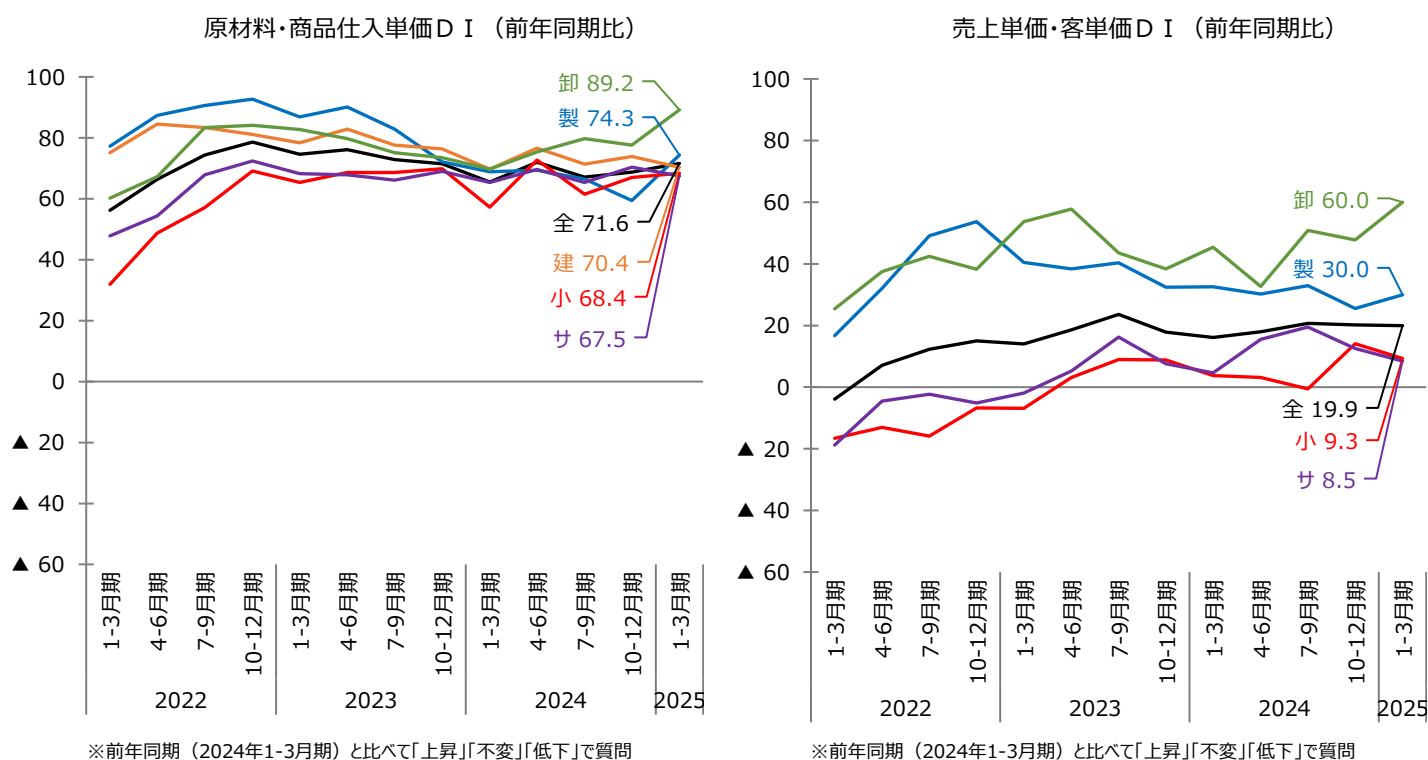
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より5.5ポイント減の▲23.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント増の71.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、小売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の19.9と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、北海道：719企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 北海道

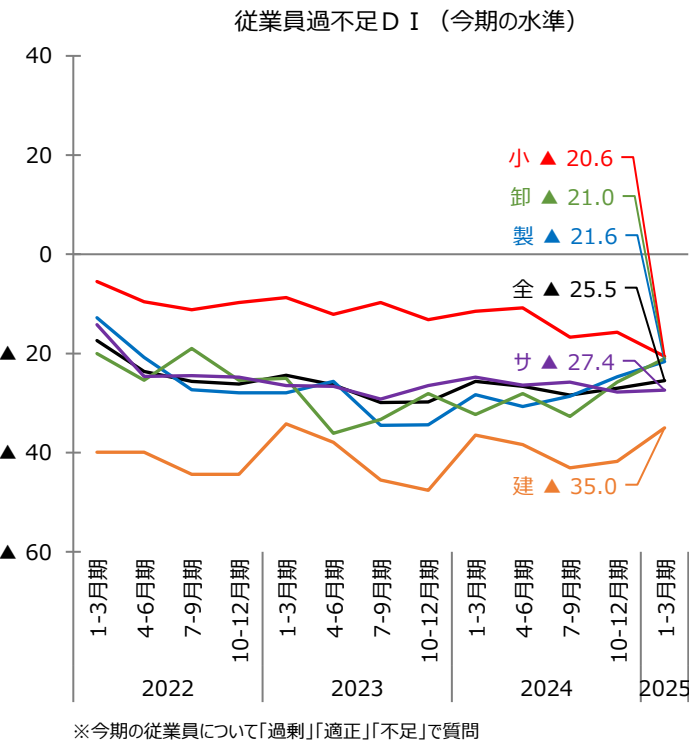
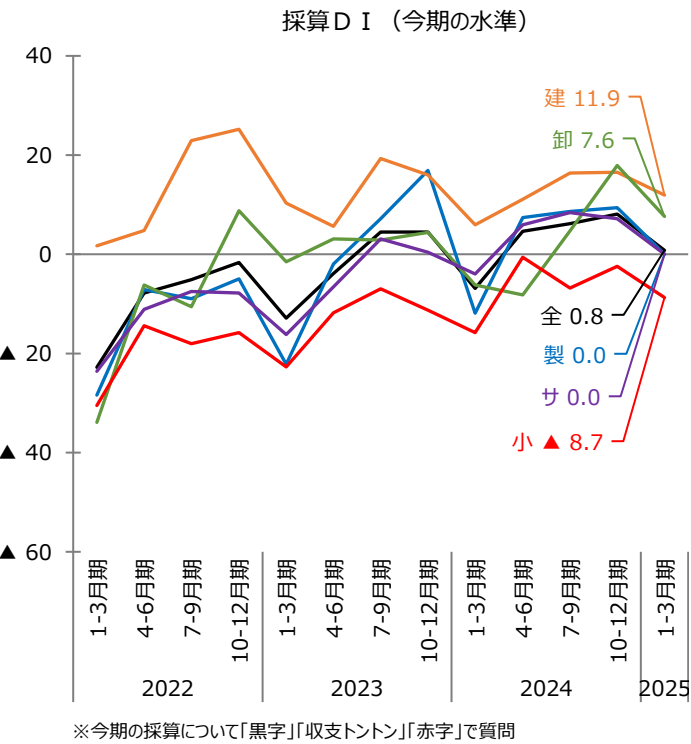


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より7.3ポイント減の0.8と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の▲25.5と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、卸売業、製造業、サービス業で上昇し、小売業で低下した。



5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	ナメシ料金や取扱商品の単価を徹底的に見直しを掛け改定した。得意先確保がカギとなってくる。大変苦しい状況だが耐えるしかない。	製造業	毛皮製造業
	冬期間に入っているの、未成工事等がひと段落したので売上等は落ち着いている。仕入単価は上昇が止まらず、景気に悪影響を及ぼしている。大型物件が官民問わずない状況において、厳しい景気情勢は続いている。	建設業	一般管工事業
	国内人気アニメ作品の函館を舞台にした上映で、函館の観光客が増加した。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	メインユーザーが高齢者層であり、燃料・食料品の高騰から、服飾品を節約する傾向が強い。インバウンドの需要増で辛うじて不足分を補っている。	小売業	かばん・袋物小売業
	1～3月期は繁忙期に向けた仕込み期間であるため、例年は採算が赤字になっていたが、今期は新規販路が複数確保できたため、収支トントンにすることができた。	サービス業	その他の専門料理店
見通し	12月～1月は当社が取り扱う魚種が減少したが、2月に入りタラの水揚げが例年より増加し、処理数量が増えた。4月からの水揚げ魚種が心配だ。	製造業	その他の水産食料品製造業
	民間需要の停滞が当初想定していた水準より回復せず、特に弊社の主力事業である商業用店舗、ホテル改修工事等は未着手の事業案件が増加している。設備投資は材料の価格上昇に伴い収益の確保が困難な様である。	建設業	一般土木建築工事業
	売上や業況が急激に良くなるわけではないが、良くなる方向へと向かっていると感じる。しかし、そのためには設備投資が必要である。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	米の価格は下がるどころか上がり始め、それに追い打ちをかけるように野菜の価格の上昇が止まらない。消費者の不満の声が以前よりも大きくなっている状況で経費等をこれ以上価格に転嫁することは難しい。	小売業	各種食料品小売業
	年末の売上は思ったよりあったが、仕入率、人件費も共に増加していた。新規事業の宿も営業開始をし、今後売上を伸ばしていきたい。資金繰りはかなり厳しい状況であるため、原価率の見直し等も必要と考える。	サービス業	中華料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。